

第 130 回火山噴火予知連絡会
口永良部島の火山活動に関する検討結果

口永良部島では、噴煙活動等が継続しており、今後も 8 月 3 日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

口永良部島の新岳では、8 月 3 日に噴火が発生しました。大きな噴石が山頂火口から約 1 キロメートルの範囲に飛散し、火砕流が新岳山頂火口の南西側から西側にかけてと東側に流下しました。噴出した火山灰には新鮮なガラス質粒子が少量含まれており、今回の噴火にはマグマが関与したと考えられます。

8 月 3 日の噴火以降、新たな噴火は発生していません。新岳山頂火口や西側割れ目からの噴煙活動がやや活発な状態で継続しており、10 月 7 日から 8 日に実施した現地調査では、新岳南西斜面で新たな噴気が確認されています。

二酸化硫黄の放出量は、1 日あたり 200 から 500 トンと噴火前（1 日あたり 100 トン未満）よりも多い状態となっています。

火山性地震や継続時間の短い火山性微動を時々観測しました。

水準測量や GNSS 観測によると、山麓の観測点による基線長には大きな変化は認められていません。

以上のことから、噴煙活動等は継続しており、今後も 8 月 3 日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

現在のところ、マグマが大量に上昇していることを示す変化はみられず、大規模な噴火につながる兆候は認められませんが、今後も地殻変動等のデータを注意深く見守る必要があります。

引き続き、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。